

平成21年3月期 決算説明会

2009年5月21日

阪和興業株式会社

- **売上高**
年度前半の鉄鋼製品価格の上昇などにより、前期比2.1%増の1兆5,392億円。7期連続増収で過去最高を記録。
- **当期純利益**
年度後半の販売収益の減少に加え、たな卸資産や投資有価証券の評価損計上により、前期比54.3%減の59億円。
- **配当**
期末配当・・・6円、年間配当・・・12円
新年度配当予想・・・中間6円、期末6円（年間配当12円）
- **中期経営計画の進捗**
経済環境の激変により、最終年度目標の実現は困難な見通しとなるも、事業戦略については着実に進行している。

経営成績（連結）

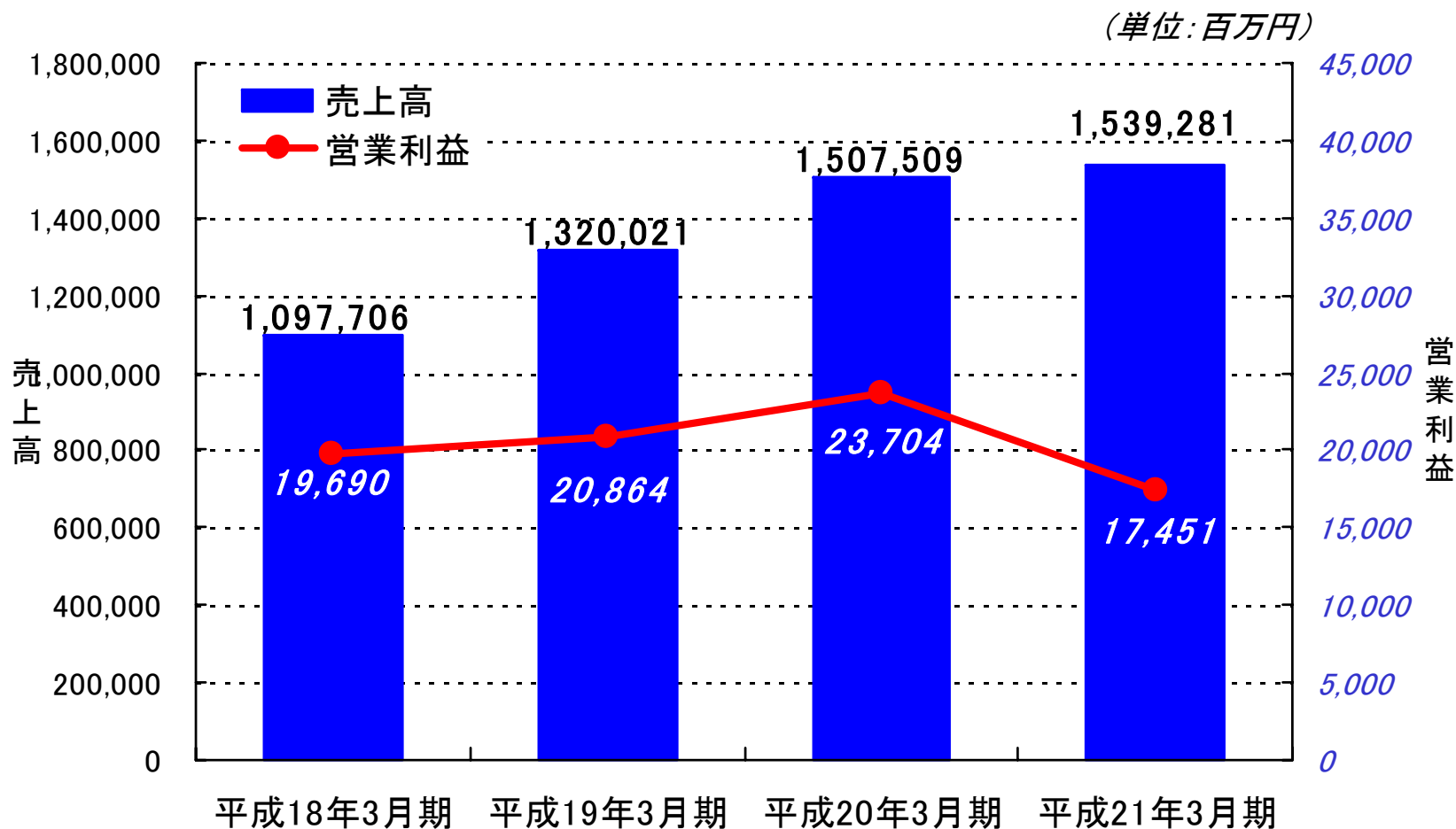


(単位:百万円)

	当 期	前 期	前 期 比
売上高	1,539,281	1,507,509	+2.1%
営業利益	17,451	23,704	△26.4%
経常利益	15,007	21,267	△29.4%
当期純利益	5,997	13,117	△54.3%

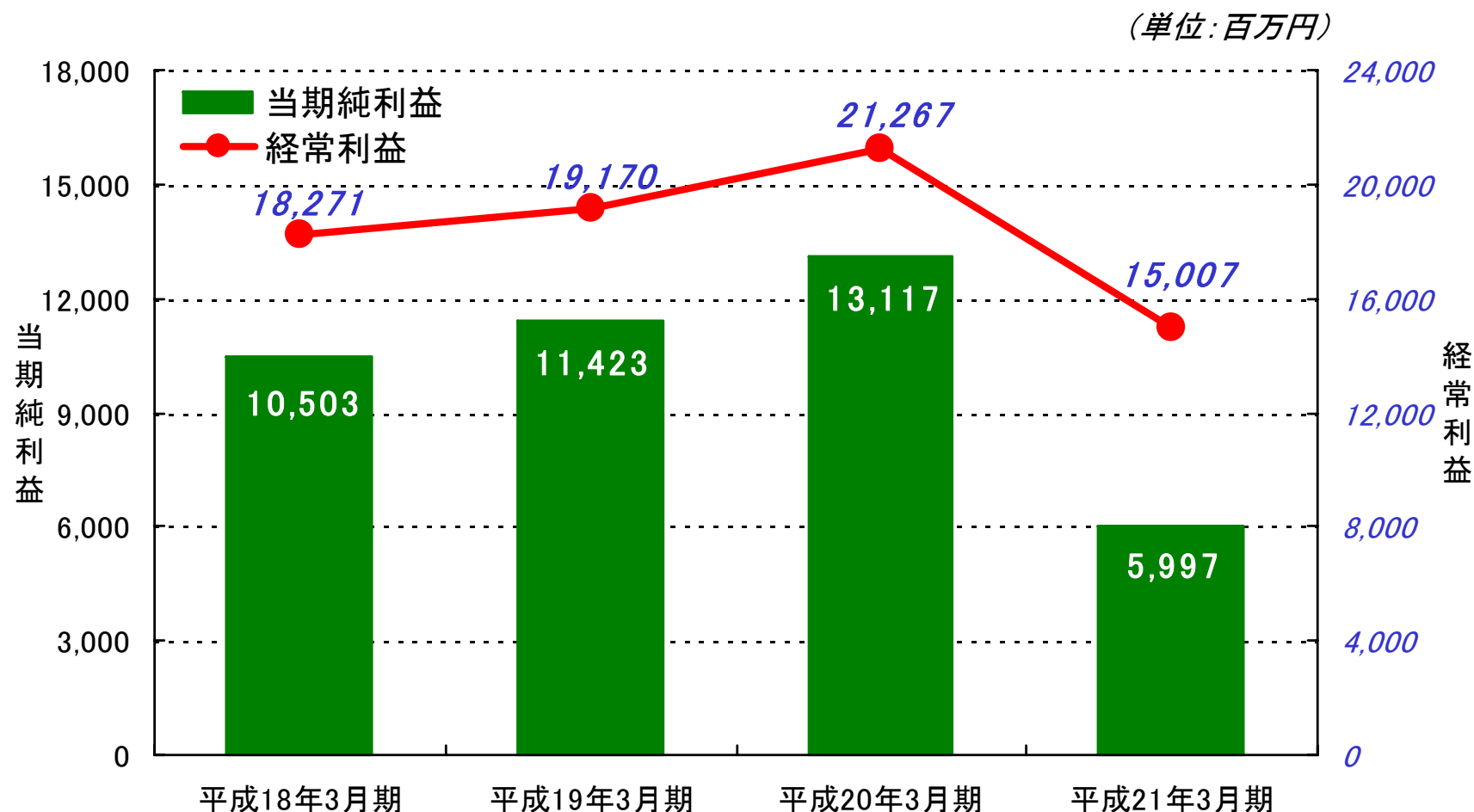
売上高推移(連結)

世界的な好景気を背景に、販売量、価格ともに上昇し、ここ数年拡大基調を続けてきたが、当期は年度後半の経済環境の停滞により減速。



当期純利益推移（連結）

増加基調にあった経常利益や当期純利益も、当期は営業利益段階での減益に加え、株式市況の下落による投資有価証券評価損により減益に。



財政状態（連結）



(単位:百万円)

	当期末	前期末	前期末比
総資産	479,379	482,014	Δ0.5%
負債	384,466	381,088	+0.9%
純資産	94,912	100,926	Δ6.0%
自己資本比率	19.7%	20.7%	
一株当たり純資産	450円05銭	473円70銭	Δ5.0%
負債倍率(ネット)	1.9倍	1.5倍	+25.5%

キャッシュ・フローの状況（連結）



(単位:百万円)

	当 期	前 期	増 減
営業活動による キャッシュ・フロー	$\Delta 5,742$	$+21,430$	$\Delta 27,172$
投資活動による キャッシュ・フロー	$\Delta 19,535$	$\Delta 8,443$	$\Delta 11,092$
財務活動による キャッシュ・フロー	$+46,591$	$\Delta 9,144$	$+55,735$
現金及び現金 同等物期末残高	$35,046$	$14,178$	$+20,867$

セグメント別の状況（連結）

売上高

	当 期	前 期	前期比
鉄 鋼	877,755	790,340	+11.1%
金属原料	155,841	202,019	△22.9%
非鉄金属	51,859	65,344	△20.6%
食 品	82,218	84,671	△2.9%
石油・化成品	320,816	311,480	+3.0%
その他	50,789	53,652	△5.3%
計	1,539,281	1,507,509	+2.1%
消去又は 全社	—	—	—
連 結	1,539,281	1,507,509	+2.1%

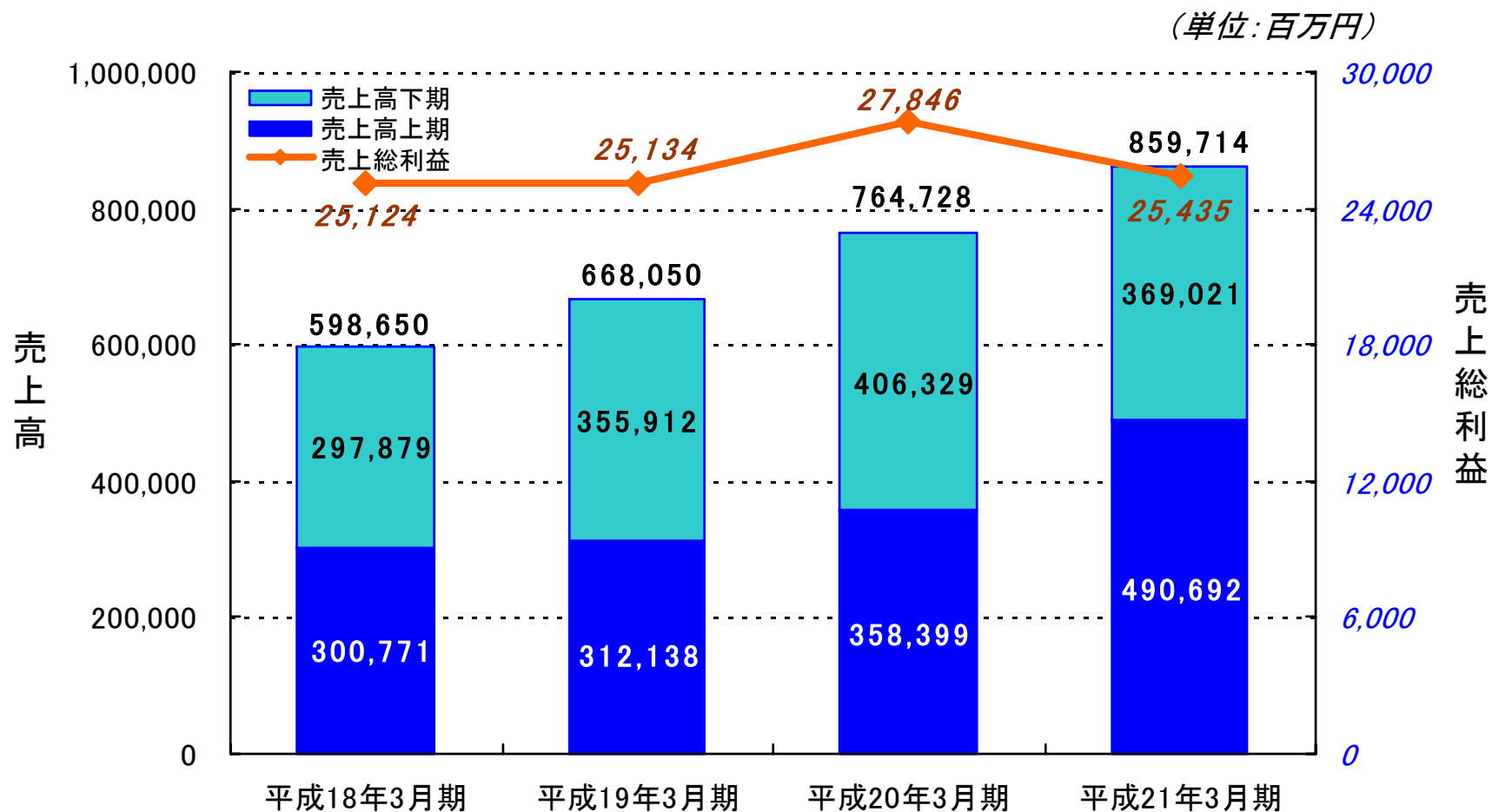
営業利益

（単位：百万円）

	当 期	前 期	前期比
鉄 鋼	10,234	15,874	△35.5%
金属原料	2,092	6,619	△68.4%
非鉄金属	1,068	2,014	△47.0%
食 品	1,645	776	+112.0%
石油・化成品	4,801	2,545	+88.6%
その他	3,382	1,424	+137.5%
計	23,225	29,256	△20.6%
消去又は 全社	(5,774)	(5,552)	+4.0%
連 結	17,451	23,704	△26.4%

鉄鋼事業の売上高・利益推移（単体）

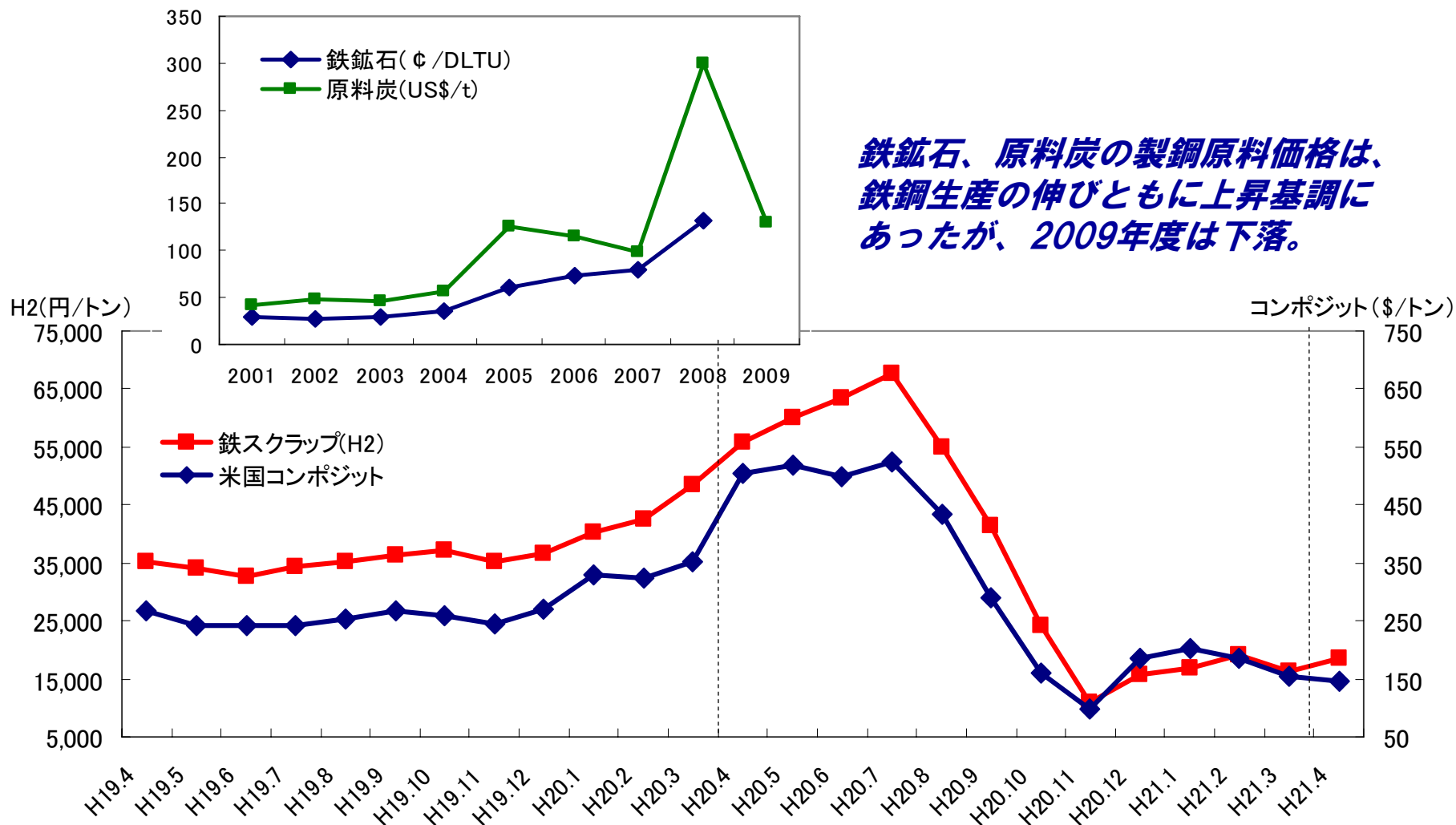
年度前半は市況の急騰により大幅増収も、後半は需要減により減速。
利益も市況下落により、たな卸資産評価損を計上した結果、減益に。



鉄スクラップ市況推移 鉄鉱石・原料炭価格推移



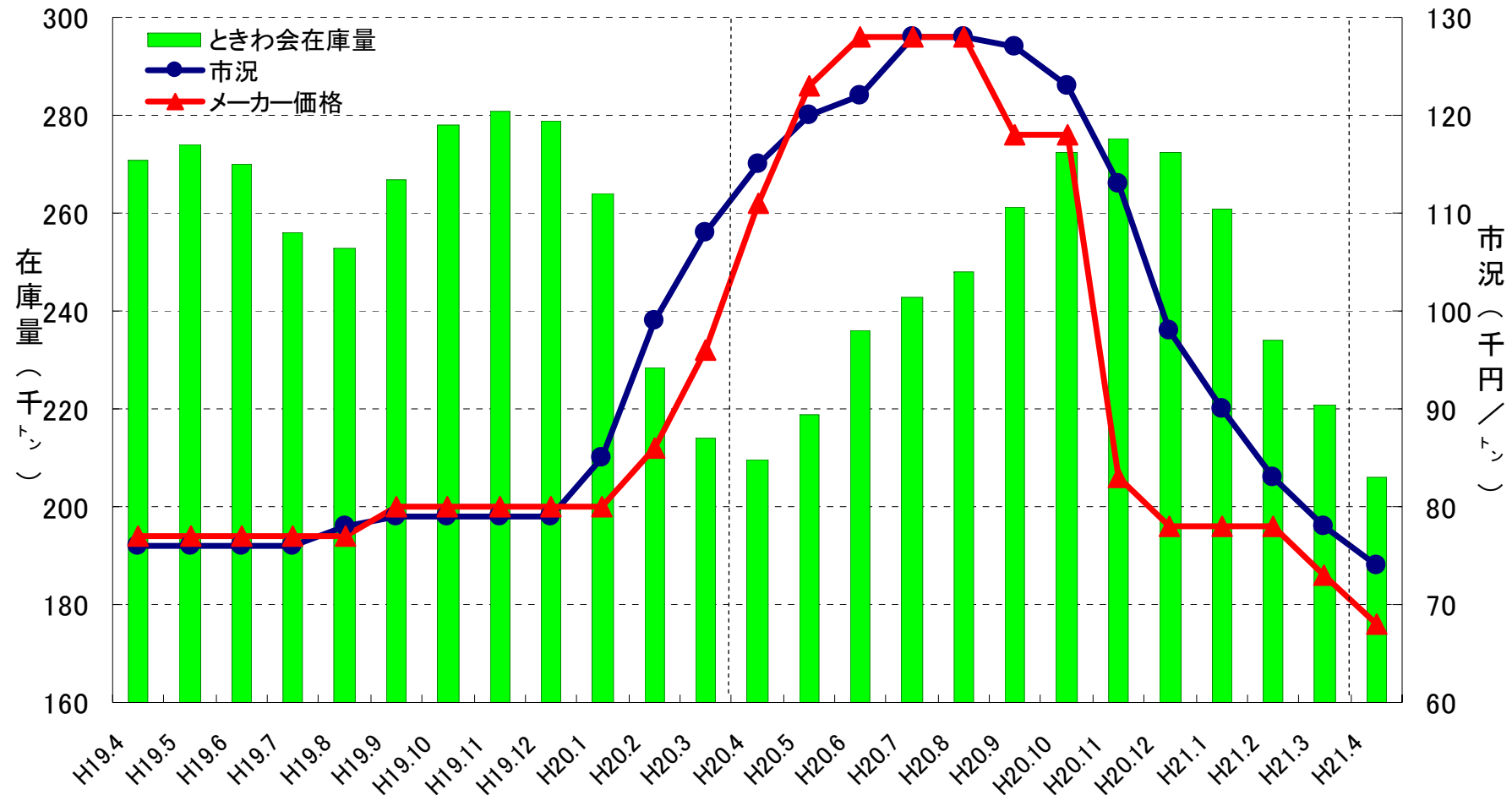
7月までは海外からの購入意欲も強く、スクラップ需要の増加により、市況続伸するも、その後ロシア層の発生増、金融危機などを受けて急落。



(日本鉄源協会調べ H2東名阪平均価格)

H形鋼 市中在庫量と市況推移

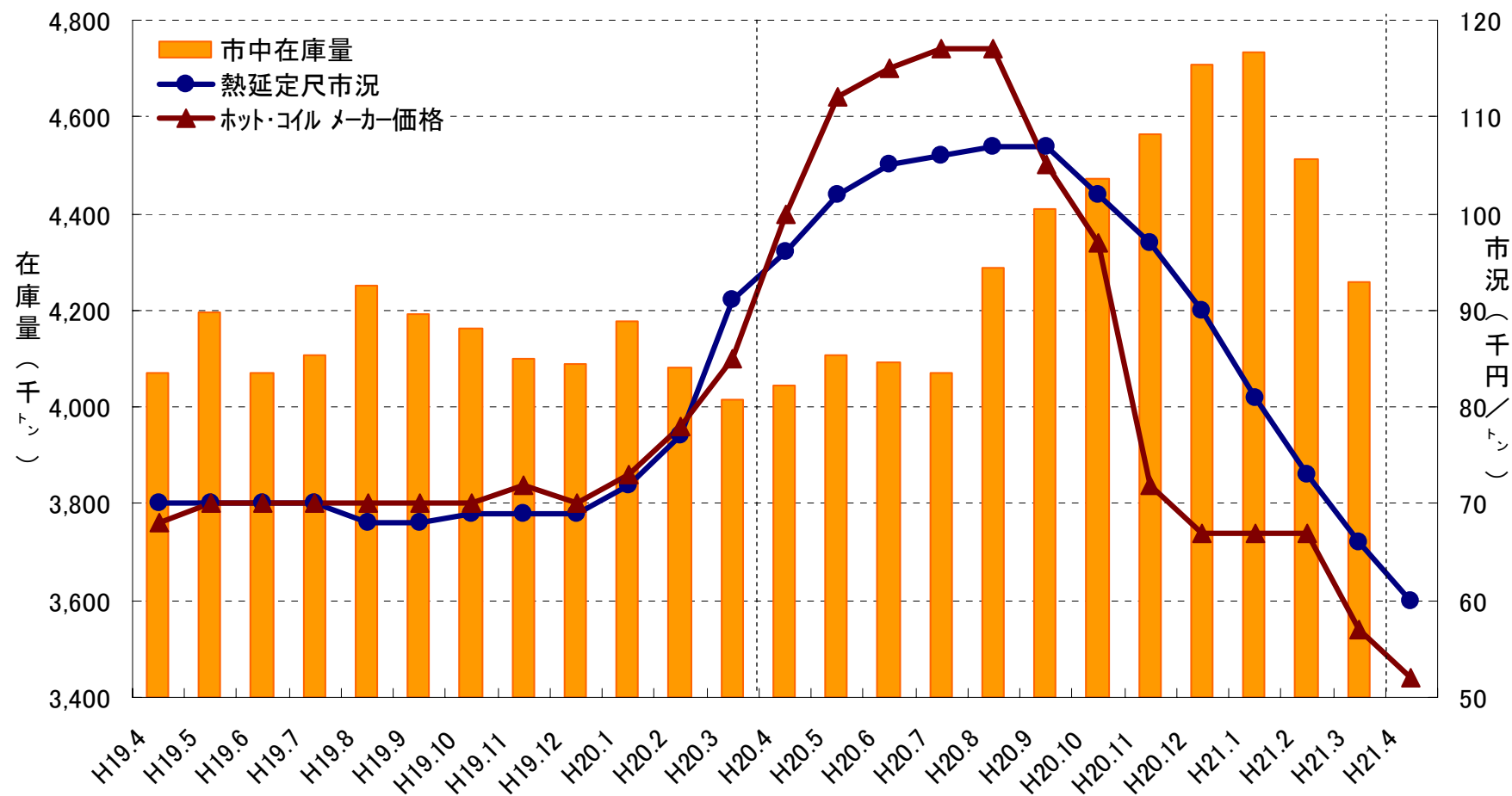
前年度末から鉄鋼原料価格上昇により価格急騰するも、実需不振により在庫は漸増。年度後半は市況急落。減産強化により、在庫は適正化へ。



薄板3品 市中有庫量と熱延鋼板市況推移

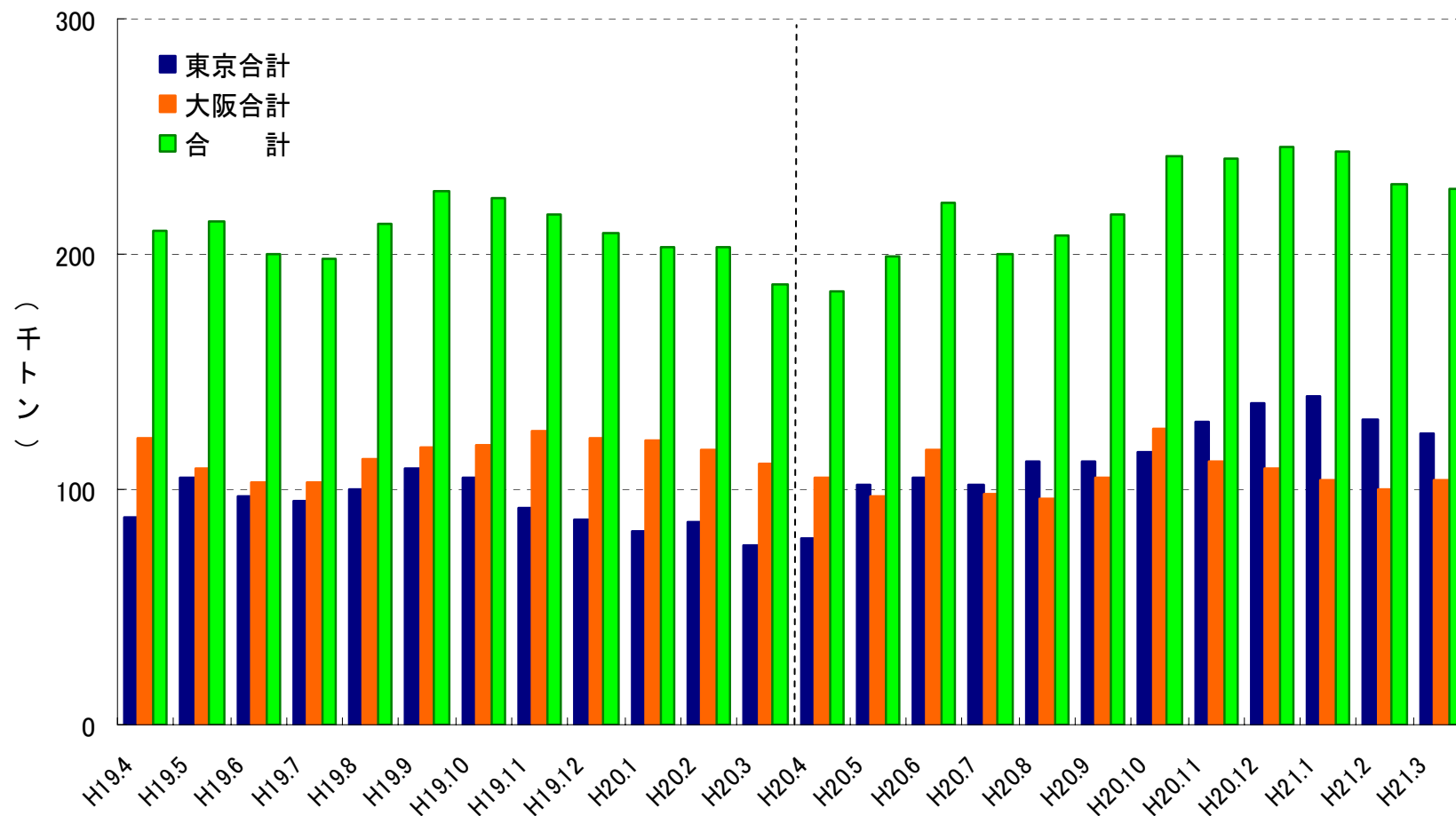


H形鋼同様前年度末から価格は急騰。年度後半以降の製造業向け需要急減により在庫の増加と市況急落を招く。



輸入鋼材 岸壁在庫の推移

輸入鋼材の入着状況には大きな変化はなかった。年度後半は海外価格が下落する状況にあったが、国内の需要減により輸入材の流入は漸減傾向にある。



阪和興業株式会社調査

セグメント別の状況（連結）

売上高

	当 期	前 期	前期比
鉄 鋼	877,755	790,340	+11.1%
金属原料	155,841	202,019	△22.9%
非鉄金属	51,859	65,344	△20.6%
食 品	82,218	84,671	△2.9%
石油・化成品	320,816	311,480	+3.0%
その他	50,789	53,652	△5.3%
計	1,539,281	1,507,509	+2.1%
消去又は 全社	—	—	—
連 結	1,539,281	1,507,509	+2.1%

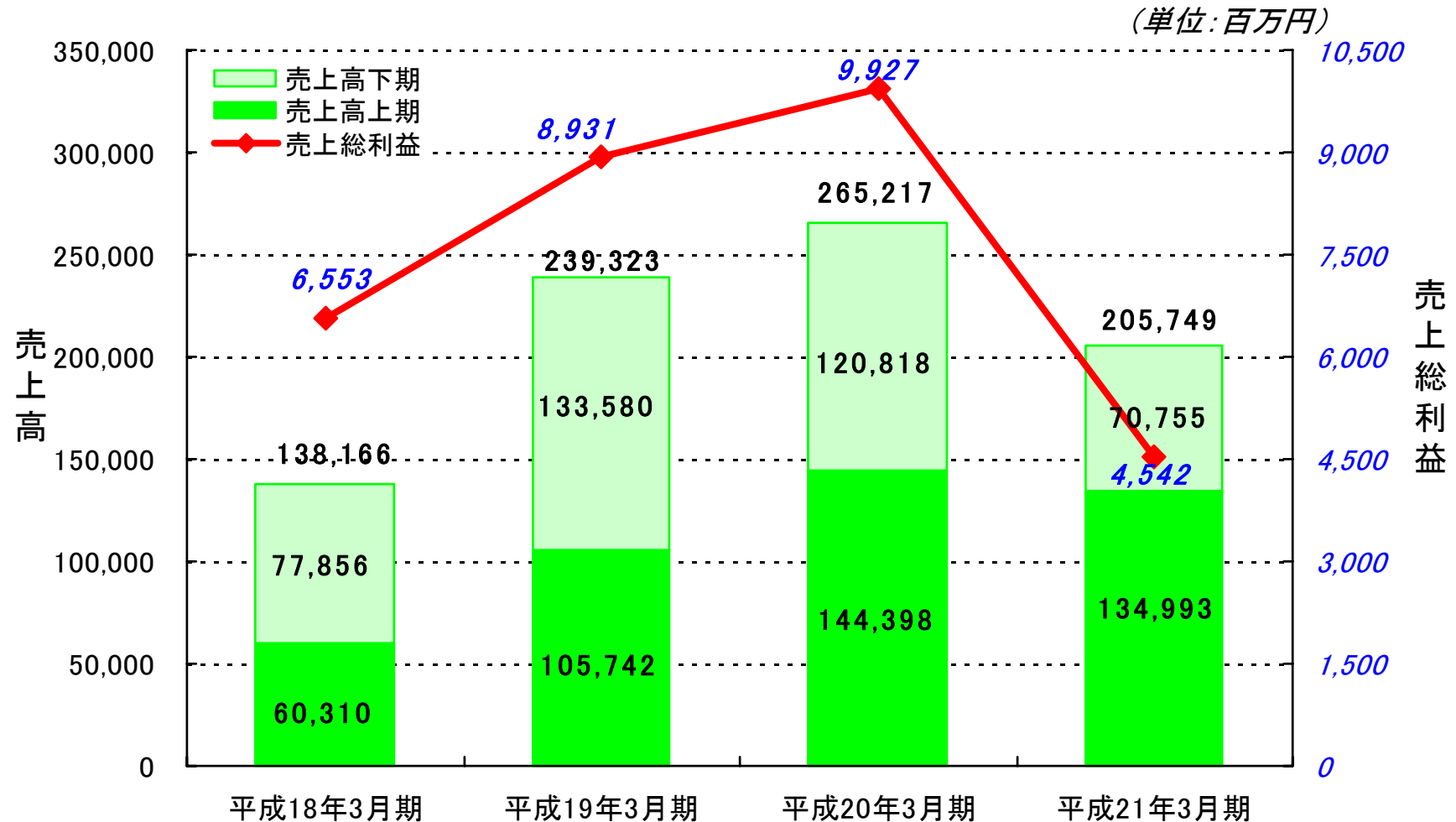
営業利益

（単位：百万円）

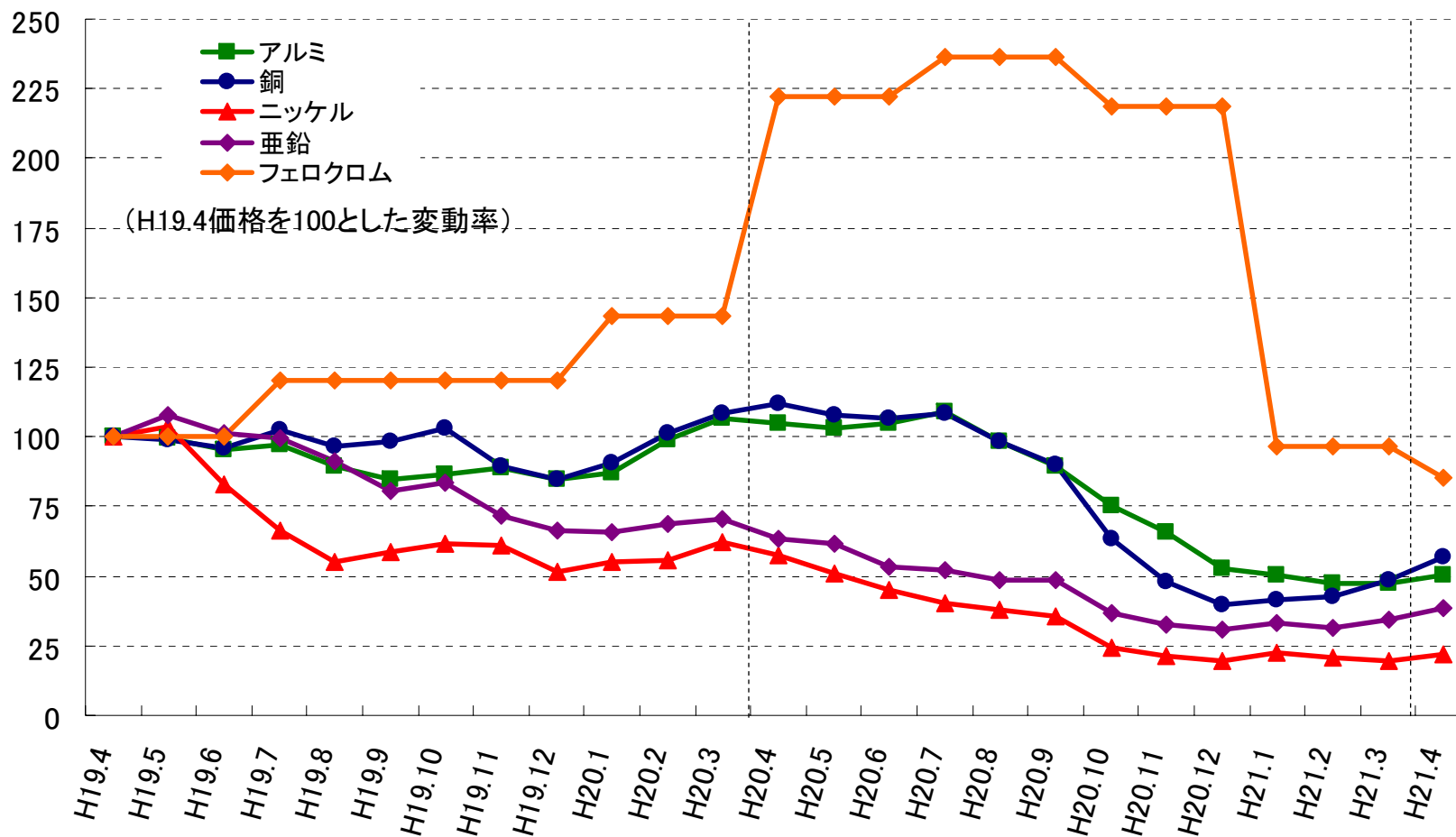
	当 期	前 期	前期比
鉄 鋼	10,234	15,874	△35.5%
金属原料	2,092	6,619	△68.4%
非鉄金属	1,068	2,014	△47.0%
食 品	1,645	776	+112.0%
石油・化成品	4,801	2,545	+88.6%
その他	3,382	1,424	+137.5%
計	23,225	29,256	△20.6%
消去又は 全社	(5,774)	(5,552)	+4.0%
連 結	17,451	23,704	△26.4%

金属原料・非鉄金属事業の売上高・利益推移（単体） HANWA

市況が低下傾向で進む中、鉄鋼メーカー・ステンレスメーカーの減産により、ニッケル・クロム類・合金鉄の需要が低迷。アルミ・銅なども年度後半からの需要減により販売減に。



LME品種価格は下落傾向で推移。フェロクロムはニッケル高騰による代替需要増により高騰したが、ステンレス不況により年度後半に急落。



セグメント別の状況（連結）

売上高

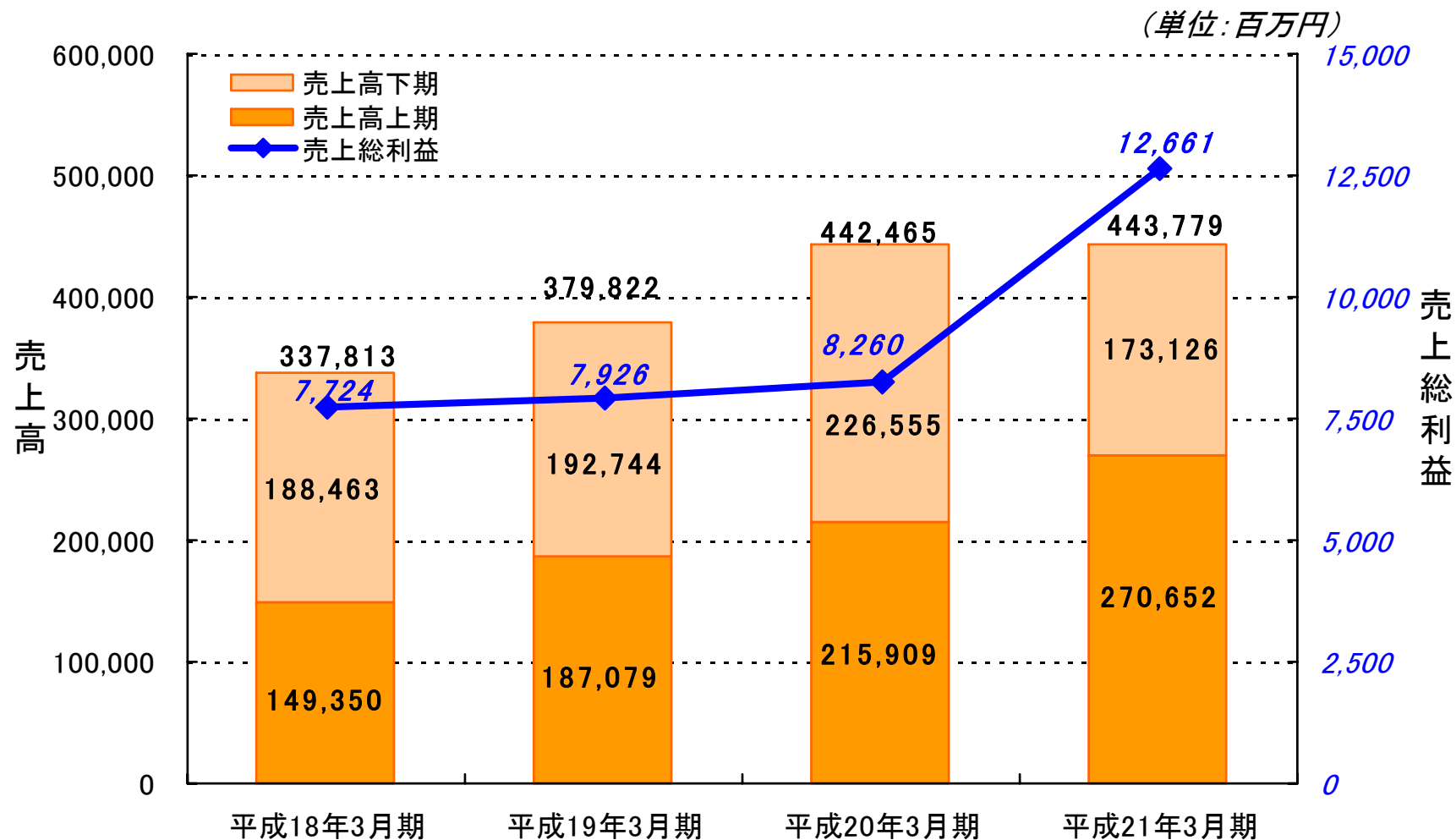
	当 期	前 期	前期比
鉄 鋼	877,755	790,340	+11.1%
金属原料	155,841	202,019	△22.9%
非鉄金属	51,859	65,344	△20.6%
食 品	82,218	84,671	△2.9%
石油・化成品	320,816	311,480	+3.0%
その他	50,789	53,652	△5.3%
計	1,539,281	1,507,509	+2.1%
消去又は 全社	—	—	—
連 結	1,539,281	1,507,509	+2.1%

営業利益

（単位：百万円）

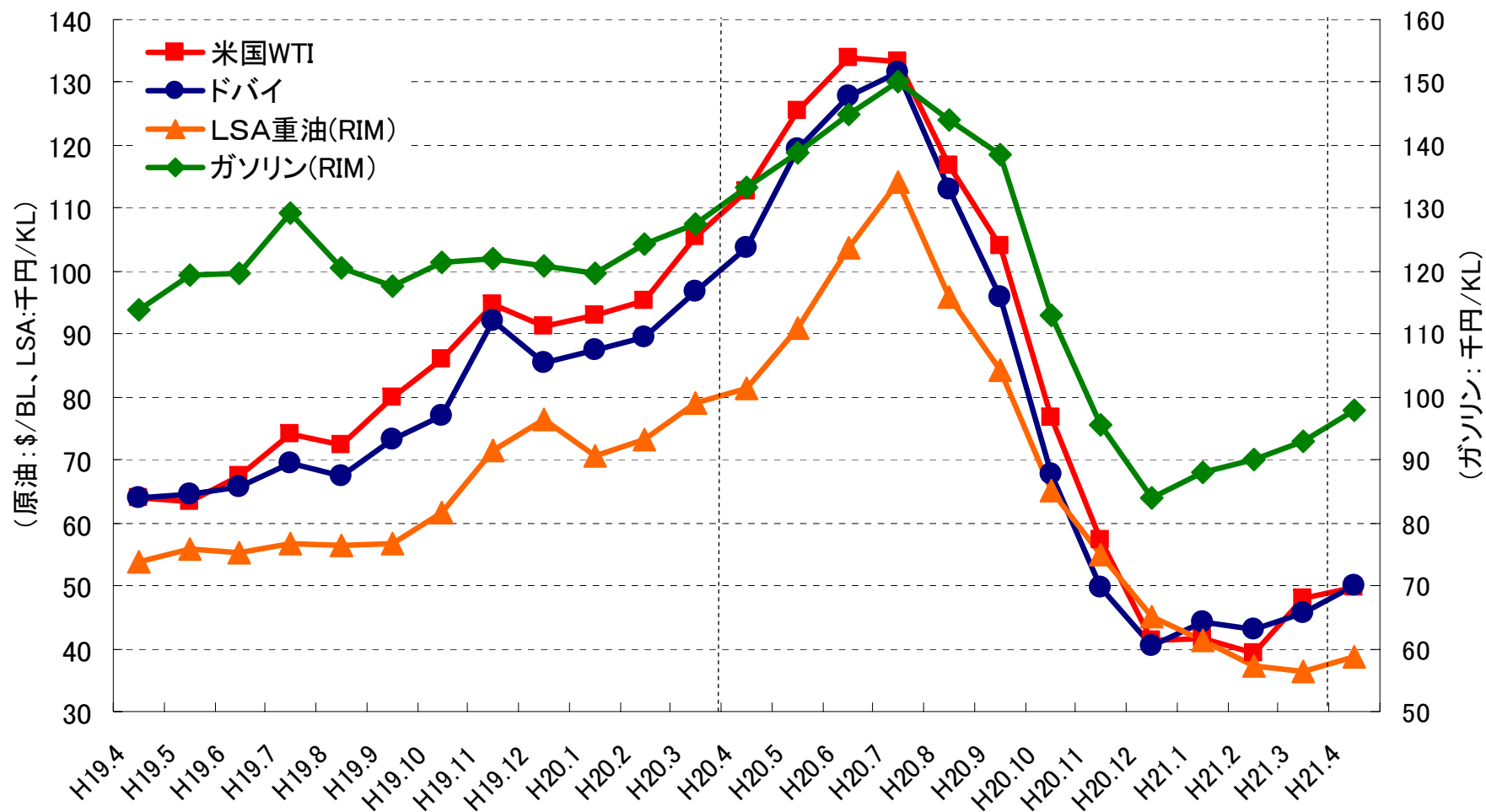
	当 期	前 期	前期比
鉄 鋼	10,234	15,874	△35.5%
金属原料	2,092	6,619	△68.4%
非鉄金属	1,068	2,014	△47.0%
食 品	1,645	776	+112.0%
石油・化成品	4,801	2,545	+88.6%
その他	3,382	1,424	+137.5%
計	23,225	29,256	△20.6%
消去又は 全社	(5,774)	(5,552)	+4.0%
連 結	17,451	23,704	△26.4%

年度後半は減速したものの、石油化成品事業を中心に事業規模を拡大。
食品事業や木材・機械などのその他の事業も収益面で健闘。



原油・石油製品 市況推移

2002年からほぼ一貫して上昇を続けてきた原油価格も、昨年夏をピークに以後急落。石油製品価格も追隨して下落。足下では反転も。



当期実績と中期計画との比較

経済環境の悪化に伴い、利益面の指標は前年度に比べ後退。最終年度の数値目標については、実現は困難な情勢。

連結ベース	前期実績	当期実績	中期計画 (最終年度)	中期計画 進捗率
売上高 (億円)	15,075	15,392	16,000	96.2%
営業利益 (億円)	237	174	250	69.8%
経常利益 (億円)	212	150	230	65.2%
ROA	2.7%	1.2%	2.4%	50.0%
ROE	13.3%	6.2%	11.0%	56.4%
BPS	474 円	450 円	600 円	75.0%
負債倍率(ネット)	1.5 倍	1.9 倍	1.5 倍	73.3%

《鉄鋼事業》

加工機能強化・・・阪和流通センターレベラー増強、長富・東莞コイルセンター能力増強。

実需深耕の拠点展開・・・北海道倉庫新設、中国支店昇格

海外展開の強化・・・インドネシア、ベトナムでのコイルセンター事業、ドバイでの在庫販売

《金属原料事業》

仕入ルートの多様化・・・ルーキーグループに出資、ヨハネスブルグ支店開設

《非鉄金属事業》

加工機能の強化・・・アルミサッシスクラップ選別加工設備新設

《食品事業》

海外販売の強化・・・国産水産物の輸出事業、アムステルダム現地法人設立

《石油・化成品事業》

海外展開の強化・・・船用石油販売の増加、石油製品輸入の増加

《木材事業》

海外展開の強化・・・国産丸太・木材製品の対外輸出事業

平成22年3月期の業績予想



経済環境の反転時期が未だ不透明であり、売上高は前期比72%、経常利益は前期比80%としている。

配当は安定配当を重視し、年間配当12円に据置。

連結

(単位:百万円)

	第2四半期累計	通 期	平成21年3月期
売上高	537,000	1,106,000	1,539,281
営業利益	5,900	14,800	17,451
経常利益	4,500	12,000	15,007
当期純利益	2,700	7,200	5,997

	年 間	中 間	期 末
1株当たり配当金	12円00銭	6円00銭	6円00銭

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。